

参考資料4

コミュニティビジネス勉強会議事録

第1回 コミュニティビジネス勉強会
(平成27年10月14日9:00~12:00)

第2回 コミュニティビジネス勉強会
(平成27年12月11日13:30~17:00)

第1回
コミュニティビジネス勉強会
議事録

平成27年度 農山漁村交流拠点整備事業
いいな3村 第1回コミュニティ・ビジネス勉強会 議事要旨

1. 日 時：平成27年10月14日（水）9:00～12:00

2. 会 場：伊平屋村 前泊港ターミナル2階 多目的ホール

3. 出席者：

<講師>

・グリシャス株式会社 地域活性プロデューサー 石渡氏

<グリーン・ツーリズム推進団体>

・伊平屋村 総合推進室 上原主事

・伊平屋島観光協会 西銘主任

・一般社団法人いぜん島観光協会 上間事務局長

・一般社団法人今帰仁村観光協会 又吉事務局長

<沖縄県>

・沖縄県 農林水産部 村づくり計画課 崎間主任技師、金城技師

<受託事業者>

・株式会社オリエンタルコンサルタンツ 小川、大城

・株式会社アンカーリングジャパン 大島

4. 議事要旨

(1) コミュニティ・ビジネスのこれまでの流れ

- ・いいな地域の特性は“家族を大切にすること”で考えが一致した。例えば、シーミーやお盆のウンケー・ウークイなど、仕事よりも家族の行事や地域の行事を優先することが当たり前である。この価値観を発信することはできないかと考えた。
- ・一方で、提供する食材としては、県内有数の産地である“米”が挙げられた。この米を土鍋炊きすると炊飯器で炊くよりもおいしいのではないかと考えた。土鍋は手間と時間がかかり不便だが、この不便を家族で見守り楽しむことで家族の価値観を共有できると考えた。
- ・米を使用して作る料理は“おむすび”を検討している。家族の絆やいいな3村の結びつき、三角形で3村の協働も表せるのではないかと考えた。
- ・米は伊平屋村・伊是名村の米を1合ずつ、食べ比べてもらうことを想定している。具体的には、伊平屋村・伊是名村の米+油味噌等の3村の具材を基本に、土鍋、パンフレットをセットにして販売する。当初 1,200～1,300 円と見積もったが、検討を進めてみると提供価格が 1,500～2,000 円に値上がりしそうである。土鍋は県外から発注する考えである。今帰仁村の製造所に相談してみたが、金額が高価になる。
- ・さらに、消費者のニーズにマッチするかどうかという懸念もある。（以上、又吉事務局長）
- ・ご報告の内容によると、提供価格について苦慮されているようである。価格設定の際に、3村のみなさんへ利益がどれくらい残る想定で検討しているか、ビジネス面の視点から気になるところ

である。

- また、沖縄県内では土鍋を使用してご飯を炊く家庭はどれくらいあるだろうか。土鍋を商品の一部へ加えることで、商品を手にとってもらうことへの阻害にならないかという懸念がある。近年では、レンジアップで炊ける鍋まで売り出されてきており、それらと勝負すると勝ち目がない。(石渡氏)
- 土鍋に特にこだわりはない。商品を選んでもらう妨げになるようであれば、土鍋をセットにする考えはリセットしたい。(又吉事務局長)
- どのようなターゲットに対して、どのように商品を売り出していくかよく検討してもらいたい。(石渡氏)

(2) 商品コンセプトの再構築

①付加価値づけについて

- 伊平屋村や伊是名村では、どのような品種の米を栽培しているのか。(石渡氏)
- 伊平屋村はひとめぼれをベースに、品種改良をしているようである。(上原主事)
- 伊是名村はこしひかりだったように記憶しているが、曖昧である。(上間事務局長)
- それぞれの島の米、異なる品種の米を単に食べ比べる方法ではなく、2村の米を一番おいしく食べられる米のブレンドを検討してはどうか。
- 付加価値は見つけるのではなく、“つくる”ものであると意識してほしい。(以上、石渡氏)

②新たな視点“縁起物”

- 米は最高位の産地・品種へ値付けされてから、それ以下のランクの米が値付けされていく流れがある。伊平屋村・伊是名村の米については、この評価方法に乗らず(他ブランド米と同じ土俵で勝負するのではなく)、オンリーワンでPRする方法を見出してほしいと思う。
- 例えば、県外から沖縄を見たときに、“神秘的”な印象を受ける。神事や祭事、パワースポットめぐりなどと掛け合わせて、「おむすびで結ぶ“縁結び”“運結び”」というのはどうか。
- 事例として、島根県では出雲大社へ驚くほど多くの縁結びツアー客が訪れている。(以上、石渡氏)
- 3村にはパワースポットのような場所はないだろうか。(石渡氏)
- 今帰仁村はウガミをする拝所や巡礼する場所が数々ある。(又吉事務局長)
- 伊平屋村にはシヌグドゥやカミンチュはあるが、巡礼するような場所はない。(上原主事)
- 伊是名村も巡礼する場所はないが、子宝に恵まれるという場所がある。(上間事務局長)
- 伊平屋村・伊是名村でとれた米を、今帰仁村で祈祷するという方法が考えられる。(石渡氏)
- このほか、子宝や縁結びに繋がるようなご利益や伝統行事はないか。(石渡氏)
- 伊平屋村のシヌグでは、9月前半に巫女さんと呼んで今年生まれた子供へ祈祷してもらう。1年間病気や怪我などをしないように厄除けする行事である。また、兄弟の人数も多い。(上原主事)
- 伊是名村では勢理客に子宝に恵まれるという場所があるが、まだ公に公表されていない場所であ

る。伊是名村も兄弟が7～8名いる家庭が多くあり、子宝の島としてTVに取り上げられたことがある。(上間事務局長)

- 今帰仁村は古宇利島に沖縄版のアダムとイブの伝説があり、現在では恋人の島をうたっている。また、プトゥキヌイッピャは子宝にご利益があるといわれている。プトゥキヌイッピャは、枝サンゴの石を借りて持ち帰り、枕に敷いて子宝を願って寝るというもの。子を授かったら借りた枝サンゴを返しに行くのが決まりである。一本借りて二本返す習わしのため、枝サンゴは徐々に増えており、増えた枝サンゴはそれだけ祈願に訪れる人が多いことを示している。(又吉事務局長)
- おむすびセットを、“こどもが生まれますように”という願いを込めて提供してはどうか。(上原主事)
- さらに体質改善につながるような機能的な物も併せてトッピングしてはどうか。(事務局)
- ダイレクトに機能があることを前面に出すよりは、提供側から購入者への“体への思いやり”を示すようなアイテムとして販売するといいたろう。例えば、神聖な場所の水や、昔から子宝のご利益に使われている食材やアイテムなどを用いて、体質改善を促したり、子を授かりたい気持ちを思いやるなど。(石渡氏)
- 提案の中の物販は具体的に何を想定しているのか。(上間事務局長)
- 現状では、以前から3村で検討していたおむすびセットを想定している。(石渡氏)
- この“縁起物”のコンセプトをみなさんへ強制するものではない。3村の地域資源を観光資源や特産品へ上手く繋げていくことができるコンセプトを、みなさんが考える参考にしてほしい。(石渡氏)

③おむすびセットの物販について

<販売方法>

- 商品の販売方法は、購入した家庭で炊いて食べてもらうことを想定しているのか。(石渡氏)
- おむすびセットは、家庭での調理を想定している。また、以前にオリジナルのレシピを提供する案も挙がった。(又吉事務局長)

<販売場所>

- 米は重たいというイメージから、お土産に買って帰ってくれる人は少ないのではないかと懸念がある。(西銘主任)
- 米や水は、ネット購入が一般的になりつつある。
- ネット販売の可能性として、各村の観光協会のHPに販売ページは開設されているのか。(以上、石渡氏)
- 伊是名村は観光協会のHPに販売のページがある。(上間事務局長)
- 伊平屋村はまだ観光協会のHPを製作中の段階である。(西銘主任)
- 今帰仁村は観光協会のHPはあるが、販売のページはない。
- しかし、今帰仁村は観光地の店舗で販売することは可能である。伊平屋村、伊是名村においても、フェリーターミナルがよい販売場所になるのではないかと。(以上、又吉事務局長)

<プロモーション>

- プロモーション費用がかからないか。(上原主事)
- 今帰仁村の売り場が確保できている状況であれば、プロモーション費用は大きくかからないのではないかと考える。(石渡氏)

<具材のアイデア>

- ごろっと出てくるような具材のおにぎりが石垣島では定番になっていた。今帰仁村の今帰仁あぐーを使用してはどうか。“食べてみたい”という意識を掻き立てるレシピが重要ではないか。(崎間主任技師)
- 魅力的だが、今帰仁あぐーを使用すると 2,000~3,000 円くらいの高価な商品になってしまう。(又吉事務局長)

④民泊におけるおむすびづくりについて

- 以前の協議の中で、“イチャリバチョーデー”というキーワードがなかったか。出会いを求めて旅行に訪れた人と地域の人たちとの交流が、また家族の繋がりを強めるという点で、“イチャリバチョーデー”の価値観が提供できないか。
- おむすびを受入農家の家庭で作って食べてもらい、その上でおむすびセットを販売する。その際に、おいしくつくるレシピを付けて、うちに帰った後にも再現できれば良いのではないか。(以上、崎間主任技師)
- 民泊の朝ごはんとして受入農家でおむすびを提供し、気に入ってもらったら売店等で購入してもらおうという流れが想定される。(事務局)
- 今後、おむすびの提供についても、民泊とからめたストーリー展開が必要ではないか。(崎間主任技師)

⑤完成おむすびの物販について

<販売場所について>

- フェリーターミナルの売店で販売しているおにぎりは、どこの会社から仕入れているのか。レシピを共有することは可能か。(石渡氏)
- 売店のおにぎりは個人で作って販売している。島内の生産者には、レシピを外部へ教えたがらない人たちも多い。(上原主事)
- フェリーターミナルのおにぎりとは競合することを避けるためにも、本事業で考案するおむすびを、売店の従来のおむすびの“味の違うバージョン”として位置付けて販売に協力してもらう方法も考えられる。(石渡氏)

<コンビニ販売>

- 完成品のおむすびについて、コンビニでの提供も目指すことができればと思う。(上間事務局長)
- コンビニはベンダー(加工工場)を確保するところが多い。地元密着のコンビニであれば可能性はある。(石渡氏)
- 沖縄ファミリーマートは、大学生のレシピを採用し期間限定で販売していたことがある。(又吉事務局長)
- 産学官連携や企業の CSR の一環として協力してくれることもある。しかし、事業提案し協力を

求める方法は、状況によっては足元を見られることもあるため注意が必要である。(石渡氏)

- 考えられる商品コンセプトについて、比較表を次に示す。

■ コミュニティ・ビジネスの商品コンセプト別比較表

	おむすびセットを3村で物販 [A案]	民泊で食べる [B案]	縁起物(物販) [A'案]	完成品のおむすび物販 [C案]
ターゲット	<ul style="list-style-type: none"> 来訪者 お土産(自宅に帰って作って食べる) 	<ul style="list-style-type: none"> 民泊客(現状では中高生) 地元受入農家 	<ul style="list-style-type: none"> 縁起担ぎの人(子宝、縁結び) 来訪者(、取り寄せ) 	<ul style="list-style-type: none"> 来訪者 その場で食べる(食堂、販売)
メリット	<ul style="list-style-type: none"> 組み立てやすい(加工の必要がない、パッケージ検討のみ) 	<ul style="list-style-type: none"> 数が明確(民泊参加者分) 受入農家が食事を提供しやすい 地域内消費拡大 	<ul style="list-style-type: none"> ターゲットが明確→PRにより売りやすい 観光との相乗効果が高い(観光客誘致) 	<ul style="list-style-type: none"> 成果のわかりやすさ B級グルメなど名物化が期待できる
デメリット	<ul style="list-style-type: none"> 売り込むためにセールスをかける必要がある 	<ul style="list-style-type: none"> 今帰仁村においては、伊平屋村、伊是名村の米について抵抗を示す可能性がある 各受入農家における品質の担保 	<ul style="list-style-type: none"> 場所に対して、実話・神話等に基づいた新たなストーリーをつくる必要がある 案内など、一貫して実行する必要がある 	<ul style="list-style-type: none"> 流通経路の確立が必要
流通	○	◎ ←お土産に買って帰ってもらう	? (パワースポット、HPによる)	○
観光との相乗効果	△	△	◎	◎
実現性	○	△→◎	△	?
課題(検討事項)	<ul style="list-style-type: none"> JAとの協力関係の構築 具材の魅力化 	<ul style="list-style-type: none"> レシピ(使用食材)の平等性 使用する食材に対する妥当性の共有(特に今帰仁村) 交流体験との接点をもたせる 供給の安定性の確保 記憶に残るレシピの検討 	<ul style="list-style-type: none"> カミンチュの協力体制の構築(現段階では不透明) 	<ul style="list-style-type: none"> レシピの魅力化 ターゲットの絞り込みに向けたマーケティング調査

(3) コミュニティ・ビジネスの実施体制

①米の確保とJAの協働

- 県内の米の生産量としては、石垣島がダントツに多い。伊平屋村の米は島内及び道の駅で消費されることがほとんどである。(上原主事)
- 伊是名村の民泊では基本的に伊是名島で採れた米を食事に出しているが、生産量が不足することがある。その際には他の生産地の米を食べる。島の子供たちは米の違いにすぐに気が付く。(上間事務局長)
- 台風によって米の取れ高は異なるので、供給量が確保できるかという心配はある。(上原主事)
- 伊是名村では伊平屋村の米は販売されておらず、購入することはできない。不足分を2村で補い合うことは困難である。(上間事務局長)
- 商品へ余剰米の供給が可能かどうか懸念される。縁起物であれば販売量を制限できるので、米の確保の心配は小さいと考える。(大島氏)

- 米の販売には資格等は必要とならないか。(又吉事務局長)
- 米の販売は自由化されている。しかし、現在でもJA主流の流通体系がとられるのは、米生産が村社会・仲間意識で担われていることから、流通に関しても単独での行動が少ないためである。絶対量が少ない場合には、JAから米を融通してもらえなくなる可能性が考えられる。(石渡氏)
- 米を中心とした本コミュニティ・ビジネスを実践することになれば、JAの協力が不可欠である。(上原主事、上間事務局長)

②事業実施主体

- 本年度試作品をつくった後、事業としてコミュニティ・ビジネスを継続する際は、3村のどこが主体を担うことになるのか。JA等へ引き継ぐことが出来れば良いと考える。(又吉事務局長)
- 県流通加工推進課や商工会には商品開発や事業化を支援する取り組みがある。(崎間主任技師)
- 地域資源や観光資源の創出という視点から、地域創生事業に関連した事業を活用してはどうか。(石渡氏)

(4) コミュニティ・ビジネス検討の方向性

- 議論した4つの提供方法のそれぞれに対して、まず具体的な商品案を考え、この具体案を比較し、価格面も踏まえて実施可能かどうか判断する場が必要である。
- 完成おむすびについては、インパクトが求められる。レシピは重要である。インパクトがないと楽しみをもって買ってはくれない。
- 旅行中の最後の食事の印象は特に強い。民泊でおむすびを提供するのであれば、“記憶に残る食事”を意識して検討する必要がある。(以上、石渡氏)

- 充実した勉強会となった。このタイミングで指導いただき、気づきも多くとても参考になった。今後も石渡さんにアドバイスをいただきながら進められればと思う。(崎間主任技師)

- JA へのはたらきかけ(現状の生産・余剰量の把握、協働について)など、次回の勉強会までに行動をお願いしたい部分もある。
- 今後の協議に向けた事前の検討事項については、事務局より後日連絡する。(事務局)

【次回勉強会】

- 開催地：伊是名村
- 開催日：11月24日(火)～25日(水)
- 石渡さんへ講師をお願いする

(以上)

第2回
コミュニティビジネス勉強会
議事録

平成27年度 農山漁村交流拠点整備事業
 いいな3村 第2回コミュニティ・ビジネス勉強会 議事要旨

1. 日 時：平成27年12月11日（金）13：30～17：00
2. 会 場：伊是名村 伊是名区公民館
3. 出席者：

＜講師＞

- ・グリシャス株式会社 地域活性プロデューサー 石渡氏
- ・米や松倉 店長 浅野氏
- ・1級フードアナリスト 吉崎氏

＜グリーン・ツーリズム推進団体＞

- ・伊平屋村 総合推進室 上原主事、叶 観光コーディネーター
農林水産課 前里主事補
- ・伊平屋島観光協会 西銘主任
- ・伊是名村 商工観光課 前田課長、東江課長補佐
- ・一般社団法人いぜな島観光協会 上間事務局長、前田氏
民泊受入れ家庭 名嘉氏、前川氏
- ・一般社団法人今帰仁村観光協会 又吉事務局長

＜沖縄県＞

- ・沖縄県 農林水産部 村づくり計画課 崎間主任技師、金城氏

＜受託事業者＞

- ・株式会社オリエンタルコンサルタンツ 小川、大城
- ・株式会社アンカーリングジャパン 中村、大島

4. 議事要旨

(1) 試飲・試食

①ブレンド泡盛の試飲

3村で生産している泡盛の飲み比べ及びブレンド泡盛の試飲を行った。

＜3村の泡盛・ブレンド泡盛の味わいと香り＞

	伊平屋村『照島』	伊是名村『常盤』	今帰仁村『美しき古里』	ブレンド
味	・米っぽい、香ばしさがある	・(最初は)米っぽい旨みがガツンときて、後から甘みがじんわりとくる	・まろやかで飲みやすい ・後味のキレが良い ・古酒が入っていることから、初心者にも飲みやすい	・最もまろやかになる ・複雑だけど、優しくまとまりがある味
香り	・強い	・やや強い	・弱い	

②いいなおむすび

伊平屋村・伊是名村で生産している米を使用したおむすびの試食を行った。

<おむすびレシピ>

- ・伊平屋産の米と伊是名産の米を水道水(硬水)を使用して炊き、それぞれおむすびを作った。
- ・伊平屋村の塩を使用した。

<米・塩の特徴>

	米		塩
	伊平屋村『てるしの米』 (ちゅらひかり)	伊是名村『尚円の里』 (ひとめぼれ)	伊平屋村『塩夢寿美』
特長	<ul style="list-style-type: none"> ・もっちりしている ・日本米に比べて粒立ちが良い ・米の水分量が比較的少ない(炊く際に30~40分) 	<ul style="list-style-type: none"> ・特に粒立ちが良い 	<ul style="list-style-type: none"> ・手もみ、天日塩、あら塩 ・粒(結晶)が大きい
活用方法案	<ul style="list-style-type: none"> ・ジューシーのような炊き込みご飯に向いている(米の水分量が少ないため、ダシをよく吸う) ・民泊の最後の朝ごはんではジューシーを出してはどうか ・民泊でおむすびを作る場合においても、ブレンドして販売する場合においても、ベースになる米を決めた方が良い 		<ul style="list-style-type: none"> ・小さく砕いて使用する方がなじみが良くなる
ブレンド	<ul style="list-style-type: none"> ・伊平屋村・伊是名村の米に大きく違いがないため、ブレンドする必要性は低い ・ブレンドに係るコスト(物流、人件費)を考慮する必要がある 		<ul style="list-style-type: none"> ・

<ジューシーレシピ>

- ・島ニンジン、鶏肉、しめじとともに豚のダシで炊き込んだ。三つ葉、ゆずこしょうを添えた。
- ・ダシをミーバイで取るなど、アレンジしてもよい。
- ・ダシには軟水を使用した。軟水は今帰仁村でも入手できる。

(2) 意見交換会

ブレンド泡盛の試飲及びいいなおむすびの試食による気づきや、アドバイザーによる助言を基に意見交換を行った。

①いいなおむすび

<吉崎氏提案>

■ A案 ジューシーおむすびセット

- ・「沖縄土産」という分かりやすさと、「この土地でしか購入できない米」という限定感を出した。
- ・資料は物販の案であるが、ジューシーは作る家庭によって味が違うので、民泊で食べるのも良いと思う。

■ B案 子どももおむすび作り！セット

- ・家族の絆を深めるということで、帰ってから思い出せるおむすび作りセットはどうだろうか。
- ・また、お土産をもらった人にも沖縄の味を楽しんでもらうことを考え、様々な具材をセットして遊び心のあるものにした。

<ジューシーの民泊提供について>

- 現段階での意見を整理すると、「民泊で宿泊する子ども達と作るおむすび」「おむすびの物販」「ジューシーセットの物販」という案が挙がっている。
- 民泊提供については、米の特徴や、家庭・地域の“おふくろの味”が出せることから、伝統料理であるジューシーが向いていると考える。各家庭でも普段から調理されているので、民泊でも実施は可能だと思う。
- 一方で、物販ではどのように進めると良いか。
- 民泊での提供と物販について、それぞれ3村のお考えを伺いたい。(以上、石渡氏)
- 前回の勉強会でも民泊でのおむすび提供案が出ており、机上での検討では実施可能な感じがしていた。しかし、毎日民泊を受け入れている現状を考慮すると、受入れ家庭では毎日朝ごはんがおむすびやジューシーに偏ってしまう。選択できる自由度があれば可能性もあると思う。
- ただし、3村で実施する一体感を持たせるためには、一貫した方法で実施したほうが良い。悩ましい部分である。(以上、又吉事務局長)
- ジューシーを受入れ家庭の誰もが作れるわけではない。現在でも、提供する食事には沖縄料理を求められることから努力はしているが、必ずジューシーを作るということになると、継続性に不安がある。(西銘主任)
- 現在もジューシーを食事に出すことはあるが、送り出す朝は荷造りが大変なため、出発日の朝ごはん作りは一緒にできる状況ではない。民泊の工程のどこかで実施するには案としてありだと思う。(名嘉氏)
- アレルギー対応を考えると、具材が増えるジューシーは難しいと感じる。(上間事務局長)

<ジューシーの物販について>

- みなさんのご意見を伺っていると、ジューシーは民泊の提供ではなく、セットによる物販が良いか。(小川)
- ジューシーなら、3村の特産品を組み合わせることが出来そうだ。(上間事務局長)
- ジューシーセットを販売する場合、3村で検討したレトルト案を企業へ持ち込んで製作いただき、販売を今帰仁村観光協会で引き受けるという方法等が考えられる。
- ただし、ものづくりには必ず「理由」が必要である。消費者に購入してもらうためには、いいな3村で販売するジューシーセットについても、いいな3村が製造し販売する「理由」を付けることが重要。“ジューシー”を選択する理由がもし浮かばないようであれば、白米おむすびの販売へ立ち返ることも検討の方法である。(以上、石渡氏)
- 3村において、レトルトや缶詰を製造している企業はあるか。(石渡氏)
- 今帰仁村にはない。(又吉事務局長)
- 伊平屋村においては、おむすびとは別物になってしまうが、まぐろカレーのレトルトがある。(上原主事)
- 伊是名村の玉ねぎスープはオキハム、もずくの佃煮はホクガンである。どちらにしても本島である。また、伊平屋村・伊是名村はコープおきなわと連携している。話を持ち込むことは可能である。(上間事務局長)

- すでに企業との繋がりがあり、さらに県内の企業ということであれば、製造者については消費者に対する理由が付けられる。協力してもらうための条件をまず整理してほしい。(石渡氏)

<物販の方向性について>

- ジューシーの物販と平行して、現実的に実施できる商品の開発も進めた方が良い。例えば、伊平屋村・伊是名村の米と3村の特産品をセットとして作り、そこに「どのように食べたらいいいのか」というメッセージを付ける商品などが考えられる。(石渡氏)
- コミュニティ・ビジネスに関して、本事業において実施するのは試作までであると認識している。本年度にホクガンやオキハム、コープおきなわへ提案するところまで進められれば、次年度以降への流れをつくることができると考える。
- 吉崎さんや浅野さんに、商品の付加価値化やパッケージ案等についてアドバイスをもらいながら、検討や試作を進められればと思っている。(以上、又吉事務局長)
- 又吉事務局長がおっしゃるように、本年度は試作品の作成まで進めることができれば良い。試作品については検証し、アンケートなどで評価を得てもらいたい。(崎間主任技師)

- 浅野さんのお店で商品を販売する際に、販売のポイントになることは何か？(小川)
- 米をごはんとして販売することは良いと思う。ただし、商品として付加価値化することは難しくなる。
- ごはん以外の販売方法も検討してはどうか。例えば、島外の人から見ると、伊平屋村・伊是名村は神がかったようなイメージもある。そのようなイメージに合わせて五平餅などの加工品も一つの手段としてあると思う。(以上、浅野氏)

<いいなおむすびのコンセプトへの回帰>

- これまでの協議に立ち返ると、“おむすび”は伊平屋村・伊是名村・今帰仁村の3村を結ぶという意味合いや、おむすびの三角形が3村の形をあらわすという意図があって提案された経緯がある。また、民泊でおむすび作りをやるのと良いという結論に至ったのは、おむすびなら簡単で、家族でわいわい絆を結ぶという意味合いがあったと思う。ジューシーは米の特徴や味という視点からは良いと思うが、本来のコンセプトからは外れているようで、少し収まりが悪い印象である。
- 一方で、売れないと意味がないので、その点は難しいと感じている。(以上、叶氏)
- 物販と自分たちでやるということを結び付けようとするとなんか難しくなってしまう。(小川)
- 本来のコンセプトに基づいたいいな3村のおむすびプロジェクトが成立していなくては、物販が成功しても本事業で実施する意味がない。また、本土と勝負をするような物販を行うのではなく、2期作という特徴を生かし、他地域では新米が手に入らない季節に、この地域で販売することに意義があるのではないかと。(叶氏)
- 限定性という意味で、沖縄県産の米を“日本一早い新米”が手に入る「お米のボジョレーヌーボ」と呼んでいる人もいます。期間限定で打ち出して売り出すのも良い案であると思う。(吉崎氏)

<民泊におけるおむすび作り>

- そもそも、おむすびを民泊で提供したり販売する目的はなんなのか。米をよりたくさん販売する

ことが目的なのか。(名嘉氏)

- おむすびを“結ぶ”ということ自体が重要で、伊平屋村・伊是名村・今帰仁村の3村連携や家族の絆を象徴している。(叶氏)
 - 3村の結びつけを“売り”にしたいということは理解できた。(名嘉氏)
 - おむすび作りを前提において検討すると、シューシーでの民泊は難しいだろうが、おむすびなら民泊のどこかで入れないか。(又吉事務局長)
 - 島外からの米もあるが、伊是名村の米でおむすびを作るということは可能である。(名嘉氏)
 - 2期作の期間限定で実施する方法も考えられる。(崎間主任技師)
-
- 連携するにあたり、何が出来るかと検討したときに、米をブレンドしたほうが良いかと考えたが、アドバイザーの話を聞いて、必ずしもそうではないという考えに至った。
 - 一方で、今帰仁村において伊平屋村・伊是名村のお米の使用を統一化することは難しい。民泊受入れ家庭に2村の米を使用したおむすび作りを浸透させるために、伊平屋村・伊是名村の新米を食べられるような仕組みや、おむすびセットというのがあると良い。
 - さらに、具材などについて今帰仁村の特産品の使用できる方法としたい。(以上、又吉事務局長)
 - 高価かもしれないが、今帰仁アグーを用いた具材でおむすびを作るなど特別感があって良いのではないか。(東江課長補佐)
 - 伊平屋村・伊是名村の米を、今帰仁村では特別に安価に購入できるという方法はどうか。(上間事務局長)
 - 安くして買わせる方法もあるが、出来れば付加価値を付けて買ってもらえるような流れが理想である。(又吉事務局長)
-
- 民泊での提供であり物販であり、このコミュニティ・ビジネスは3村連携を伝える手段である。その点がブレそうになっているように感じる。(叶氏)
 - 3村の特産品を活かすということも重要であると思う。民泊でのおむすび作りを進めるとともに、「3村で一緒にやっていく」という点も重視したい。(東江課長補佐)
 - 今回の物販については、ただ単にたくさん売れるというのではなく、お互いが継続的に販売できる仕組みを作っていきたい考えである。(又吉事務局長)
 - 本来の目的を考えると、シューシーセットではなく、伊平屋村・伊是名村の米と今帰仁村の具材をセットにしたおむすびセットでよいのではないか。(叶氏)
 - 今帰仁村では伊平屋村・伊是名村の米に限定するのは難しいので、楽しんでできる参加型の取組を組み立てたい。おむすびセットでもシューシーセットでも、今帰仁村としては良いと考えている。(又吉事務局長)
-
- それでは、まずは伊平屋村・伊是名村において民泊でのおむすび作りの取組を始め、その後今帰仁村にも普及を進める方法はどうか。(小川)
 - 今帰仁としては良い考えだと思う。物販でおむすびセットがあり、民泊でのおむすび作りは伊平屋村・伊是名村から始めてもらう。(又吉事務局長)

- 受入れ家庭として、民泊でおむすびを出すことはできるか。(上間事務局長)
 - 生徒と一緒に、体験してもらいながら作ることはできる。(名嘉氏)
 - お昼時間にもできるので、苦ではない。(前川氏)
 - おむすび作りのレクチャーがあると助かる。(名嘉氏)
 - 説明しながら一緒におむすびを作ることで、食育にもなる。(崎間主任技師)
 - おむすびが3村における連携や民泊のシンボルになるので良いと思う。
 - おむすび作りに関してはおむすびを食べるシチュエーションは重要である。食べる人への思いやりを大切にするといいと思う。(以上、浅野氏)
 - 一緒に食べる場合はこういう作り方、後から食べる場合にはこういう作り方、というような技術面についてレクチャーしてもらいたい。(名嘉氏)
 - おむすびの作り方については協力したい。(浅野氏)
-
- 地域ブランドづくりの観点から見たときに、この活動は3村連携によるブランド力の強化や物販の進行などの効果があるが、「自分たちの思いや取組を外部に発信するために必要な行動は何なのか」という検討が重要だろう。
 - また、おむすび作りについても体験プログラムとしての可能性は大きいと感じている。伊是名村の民泊立ち上げの際、参加した子ども達の感想では、「サトウキビ作業の際に家族で手作りお弁当と一緒に食べること」に対する感動がとても大きかった。村外の子供たちにとっては、おむすびを自分で作って外で食べるという経験がないようである。3村にとっては当たり前のことかもしれないが、そのような点が民泊体験者には喜ばれる。さらに、家族の絆を深めることも意識しながら検討を進めてほしい。(以上、中村)
 - 民泊のプログラムの中におむすび作りを入れる方向で進めたい。そのためにも、おむすび作りのレクチャーなども実施したい。(又吉事務局長)
 - 基本的には島で実施しつつ、例えば、那覇市などで伊平屋村・伊是名村の米を使ったおむすび講習会を実施して、外部へ発信していくという方法も考えられる。段階的に活動を進めていけば良いと思う。(中村)

【意見交換による方向性】

- まず、伊平屋村・伊是名村において先行して民泊(体験プログラム)でおむすび作りを導入する。その後、今帰仁村にも普及を進める。
- 民泊受入れ家庭に対して、おむすび作りの講習会を開催しレクチャーする。
- 物販でおむすびセット(伊平屋村・伊是名村の米、今帰仁村の具材)*の販売を検討する。
※おむすびセットの内容については要検討
- 外部への発信も念頭に置き、段階的に活動内容を発展させていく。

②ブレンド泡盛について

- お好みでブレンドして飲めるように、泡盛3本セットを基本にレシピブックやお猪口を付けたい。また、割り方ごとにネーミングすると面白いと思う。(又吉事務局長)
- ブレンドしやすいように、計量カップのような容器を付けると良いのではないか。(叶氏)

(3) モニターツアーについて

①実施に向けて

- モニターツアーの実施に向けて、皆さんにも柔軟に検討いただければと思う。(崎間主任技師)
- 旅行会社の社員の家族のみなさんに参加いただいて、アドバイスをもらう方法も検討している。(又吉事務局長)

②安全マニュアルについて

- モニターツアーのプログラムにイノー体験は入らないようだが、伊平屋村での勉強会におけるイノー体験のガイドをもとにして、留意点のチェックリストを作成した。あくまでも案(たたき台)であり、現場によって検討する必要がある。民泊受入れ地域によってはルールを取り決めて行っているところもあり、3村でも検討の参考にしてもらいたい。(崎間主任技師)
- チェックリスト作成の視点として、レジャーとは違うという点を明確にしたい考えである。例えば、スタッフの人数については一般的に定義などがなく、3村で検討して明確にしていく必要がある。また、災害発生時の対応についてもぜひ注意いただきたい。
- チェックの実施時期についても、ガイドの方にとって最適な時間を設定してほしい。(以上、金城氏)
- 海を楽しむ際の注意点などをまとめたパンフレットもお配りした。体験プログラムを実施する際に、ガイドのみなさんの参考にしたり、コピーして体験者へ配布するなどして使用してほしい。(崎間主任技師)

(4) 今後の推進体制について

- 連携を進めていく際にどのような体制・組織をとるほうが良いか検討したい。例えば協議会という形態をとるなど、みなさんのお考えをお聞きしたい。(小川)
- 観光協会だけに頼るというよりは、行政も二人三脚で実施するとともに、実施協議会のような形で定期的に集まればと思う。(上原主事)
- 行政としては、本事業が終わった後にも一緒に継続的に活動していきたい考えである。(東江課長補佐)
- 拠点ができると、県としてもお互いに連携がしやすくなる。(崎間主任技師)
- 北部広域市町村圏事務組合でも話題に上がったが、国ではDMOに取り組んでいる地域に対して優先的に支援を進めているところがある。今帰仁村では、名護市・本部町・伊江村との間で話が出ている。さらに伊平屋村・伊是名村を含む6村で連携をとり、観光協会と行政が協力して進めることが出来ればと思う。DMOを担いたい法人の募集などもあり、活動を継続していく一つの手段として活用できると思う。(又吉事務局長)
- 今後、改めて実施体制等については協議をしていきたい。(小川)

【総括】

- アドバイザーからの助言等もあり、活発な意見交換会を実施することができた。
- 民泊実施者の方にも参加いただけて、協議も深まったと感じる。今後、伊是名村・今帰仁村においても、民泊を実施するみなさんへ本事業の目的や取組を伝えることが重要になる。モニターツアー実施後の勉強会については、3村の民泊受入れ家庭の方にも参加してもらいたい。
- 今回の勉強会は参加状況がよく、みなさんと話合えたことは有意義な協議の場となった。これからは実施者である3村のみなさんの取組が中心となる。みなさんのご協力を得ながらさらに展開できればと思う。(以上、崎間主任技師)